



「後期栄養確保し、気象変動に負けない佐渡米生産を！」

「返り咲こう、特A産地へ！」

日時 令和6年3月16日（土）
午後1時30分～
会場 アミューズメント佐渡 大ホール

主催 佐渡農業協同組合

協賛 おいしい佐渡米研究会

令和6年度 佐渡米生産者大会 次第

日時 令和6年3月16日（土）
午後1時30分から
会場 アミューズメント佐渡 大ホール

1. 開会

2. 開会挨拶

JA 佐渡経営管理委員会会長 永井 充

3. 来賓挨拶

佐渡市長 渡辺 竜五 様
新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部 部長 前川 敏志 様

4. 全国・県内産の販売情勢と今後の販売戦略

「米穀情勢について」

PDF-P-03

全農にいがた県本部米穀部集荷推進課 課長 石田 友信 様

「令和6年産米集荷販売方針に沿った取り組みについて」

PDF-P-20

JA 佐渡営農振興部販売企画課 課長 駒形 憲昭

5. 講演

「異常気象に対応した新潟米の対応について」

PDF-P-33

新潟県佐渡普及指導センター 課長代理 松澤 清二郎 様

「高濃度散布（ドローン散布）可能な窒素液肥について」

PDF-P-50

片倉コープアグリ株式会社 課長補佐 田中 祥太郎 様

6. 令和6年産に向けた高品質・良食味米づくりについて

「生育診断に基づいた追肥散布による後期栄養確保について」

PDF-P-66

JA 佐渡営農振興部営農振興課 課長（水稻）末武 正考

7. 佐渡米コンテスト表彰式

PDF-P-82

8. 大会宣言

JA 佐渡水稻部会部会長 土屋 智徳

9. 閉会挨拶

JA 佐渡代表理事理事長 豎野 信

米穀情勢について

令和6年3月16日
JA全農にいがた



目次

1. 5年産米の作柄状況
2. 5年産米の検査概況
3. 今後の需給見通し
4. 米の販売数量・価格の推移
5. 5年産うるち米の出荷状況（全農県本部）
6. 5年産酒造好適米の状況（全農県本部）
7. 5年産もち米の状況（全農県本部）
8. 6年産米 集荷・販売方針の重点取組事項（全農県本部）
9. 佐渡産コシヒカリの主な販売先、販売事例について

1. 5年産米の作柄状況

- 国が公表した令和6年2月29日現在の作柄概況によると、全国の作況は「101（平年並）」となっています（北海道104、東北101、北陸97）。
- 北陸農政局が令和5年12月12日に公表した本県の作況は「95（やや不良）」となっています（下越95、中越96、上越93、佐渡99）。

【全国農業地域・都道府県別作況指数(2月29日現在、農水省)】

作柄	都道府県数	主な産地	全国
良 (106以上)	なし		101
やや良 (105~102)	19	北海道104、青森102、岩手104、宮城105、福島102、栃木104、群馬102、千葉103、ほか	
平年並み (101~99)	21	山形100、茨城101、埼玉99、石川100、長野100 ほか	
やや不良 (98~95)	7	秋田97、新潟95、富山98、福井98 ほか	
新潟	下越95、中越96、上越93、佐渡99		

2. 5年産米の検査概況

- 5年産米は出穂前後の高温多照や濁水などの影響を受け、他産地と比較しても品質が著しく低下しました。
- 佐渡産コシヒカリの1等米比率は3.4%、新潟県産コシヒカリ4.4%、こしいぶき12.1%となっています。
- 6年産につきましては高品質な新潟米を供給するため、高温対策を含む品質の安定・向上に向けた取り組みをお願いします。

【5年産米の全国主要銘柄の1等米比率】

銘柄	1等比率	銘柄	1等比率
佐渡産コシヒカリ	3.4%	北海道 ななつぼし	93.0%
新潟 コシヒカリ (全地区)	4.4%	北海道 ゆめぴりか	88.8%
新潟 こしいぶき	12.1%	青森 青天の霹靂	60.3%
新潟 新之助	94.0%	秋田 サキホコレ	93.4%
栃木 コシヒカリ	86.0%	岩手 銀河のしずく	97.0%
千葉 コシヒカリ	86.7%	宮城 ひとめぼれ	87.0%
富山 コシヒカリ	48.0%	山形 つや姫	51.7%
長野 コシヒカリ	93.6%	富山 富富富	93.1%
福島 コシヒカリ	74.6%	福井 いちほまれ	96.5%

注) 佐渡産コシヒカリ、新潟コシヒカリ・こしいぶき・新之助は、新潟県農産物検査協会の検査データ（2月末現在）、
その他は、米の農産物検査結果（農水省公表、12月末現在）による。

3. 今後の需給見通し

- 国が3月5日に『食料・農業・農村政策審議会食糧部会』で公表した基本指針によれば5/6年の需要量は681万トン、令和6年6月末の民間在庫量は177万トンとなっています。
- 6年産米の生産量は5年産米の生産量（当初）と同数の669万トンに設定されました。
- 6/7年の需要量は、消費トレンドおよび人口（推計値）をもとに670万トンと算出され、令和7年6月末の民間在庫量は、176万トンの見通しとなっています。

【需給見通し（農林水産省試算 6年3月5日公表）】

（単位：万トン）

		基本指針 (5年7月)	基本指針 (5年10月)	基本指針 (6年3月)
5年6月末民間在庫量	A	197	197	197
5年産主食用米等生産量	B	669	662	661
5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	866	859	858
5/6年主食用米等需要量	D	681	682	681
6年6月末民間在庫量	E=C-D	184	177	177
6年産主食用米等生産量	F	—	669	669
6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	—	847	846
6/7年主食用米等需要量	H	—	671	670
7年6月末民間在庫量	I=G-H	—	176	176

4. 米の販売数量・価格の推移

(1) 販売数量 (令和5年1月~12月)

- 米穀販売事業者における令和5年12月の販売数量は、対前年同月比で小売事業者向け104%、中食・外食事業者等向け102%で、全体として103%となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていますが、令和元年12月の販売数量と比較すると103%となります。
- 全体では、コロナ禍前（令和元年）と同程度となり回復基調が見えます。

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)】

	4年1月 ~12月累計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月 ~12月累計
小売事業者向け	98%	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%	105%	105%	104%	102%
※令和元年との比較	(101%)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)	(102%)	(104%)	(108%)	(103%)
中食・外食事業者等向け	104%	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%	105%	105%	102%	105%
※令和元年との比較	(94%)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)	(100%)	(100%)	(98%)	(97%)
販売数量 計	101%	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%	105%	105%	103%	103%
※令和元年との比較	(99%)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)	(101%)	(102%)	(103%)	(101%)

出典：農林水産省「米に関するマンスリーレポート（令和6年2月号）」

注1：報告対象業は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者である。

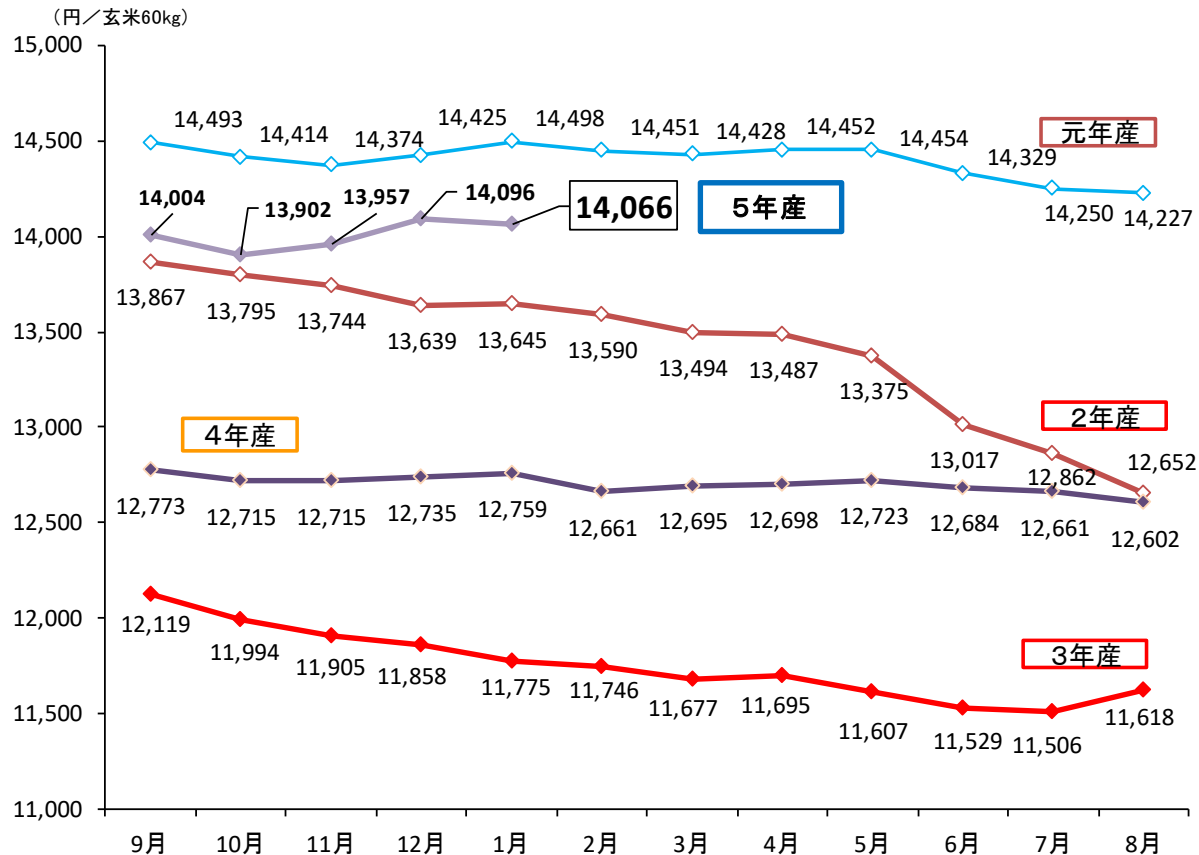
注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄ごとの動向を表すものではない。

注3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。

(2) 販売価格

- 令和6年1月の5年産米相対取引価格は、60kgあたり14,066円で前年同月を1,307円上回っています。

【相対取引価格の推移】



(備考) 農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

(3) 市中価格

- 2月中旬における5年産米の市中価格は、前月を100円～1,800円程度上回り、前年同時期（4年産）を2,000円～3,100円程度上回っています。

(単位: 関東着、円/60kg、税別)

		新潟	新潟	北海道	宮城	秋田
		一般 コシヒカリ	こしいぶき	ななつぼし	ひとめぼれ	あきた こまち
5年産 (6年2月)	①	17,200	15,600	16,400	16,300	17,500
5年産 (6年1月)	②	15,400	14,300	16,300	14,900	15,800
4年産 (5年2月)	③	14,900	12,700	14,400	13,200	14,700
前月差	①-②	1,800	1,300	100	1,400	1,700
前年差	①-③	2,300	2,900	2,000	3,100	2,800

※業界紙および卸からの聞き取り。

※5年産の一般コシヒカリ、こしいぶきは2等の価格。その他は全て1等価格。

5. 5年産米 うるち米の出荷状況（全農県本部）

- 一般・岩船コシヒカリ
3等米の大量発生により大手実需者が使用を見送るなどの影響が生じましたが、各種キャンペーンの取り組みなどにより前年を上回る出荷となっています。
- 佐渡コシヒカリ
コロナ禍明けの影響などで家庭消費向けの大手実需者への出荷が減少したことで前年を下回りましたが、2月以降は前年を上回る出荷となっています。
- 新之助
新米出荷直後は、異常高温による基準米確保の懸念から卸が販売を調整したことなどにより前年を下回りましたが、11月以降は新規需要もあり前年を上回る出荷となっています。
- こしいぶき
引き合いはあるものの、販売計画が4年産から減少したことから、卸が調整しながら販売を進めているため、前年を下回る出荷となっています。

【5年産主食うるち米の出荷状況(2月末)】

販売実績	コシヒカリ					新之助	こしいぶき	その他 うるち米	合計
	一般	魚沼	岩船	佐渡	計				
前年対比	111%	98%	114%	96%	108%	109%	84%	124%	106%

6. 5年産 酒造好適米の状況（全農県本部）

- 5年産米は、需要に対する充足率が100%となっています。ただし、うるち米と同様に1等比率が大きく低下したため、実需者からは6年産以降の1等比率の向上を求められています（5年産米は2等以下の使用にご理解いただけました）。
- 近年、島内酒造会社の需要を満たせていない状況が続いており、島内における酒造好適米の安定した供給が求められています。

【5年産酒造好適米の集荷見込（2月末）】

（単位：トン）

銘柄	需要量		集荷見込 C	充足率 C/B	うち、 島内需要
	当初 A	現在 B			
五百万石	6,302	6,267	6,267	100%	359
たかね錦	192	165	165	100%	6
越淡麗	882	874	874	100%	99
その他酒米	125	130	131	100%	183
合計	7,501	7,437	7,437	100%	647

【佐渡島内酒造会社向けの充足率】

用途	銘柄	4年産	5年産	6年産
酒造好適米	五百万石	74.3%	56.3%	72.7%
	たかね錦	105.4%	71.0%	83.3%
	越淡麗	97.9%	24.1%	141.5%
加工用米	こしいぶき	48.2%	36.9%	35.9%
計		72.8%	46.0%	54.7%

※4、5年産米は集荷実績/需要量で算出

※6年産米は出荷予定数量/需要量で算出

7. 5年産 もち米の状況（全農県本部）

- 5年産米については、需要量に対する充足率が102%となっており、未結付き分（過不足）については、大手需要者を中心に追加提案をおこなっています。
- 6年産米については、契約栽培にもとづく適正生産への取り組みを求めてまいります。また、契約栽培以外のもち米および過剰となっている米粉用もち米は、加工用もち米への転換を進めさせていただきます。

【5年産主食用もち米の集荷見込】

（単位：トン）

銘柄	需要量	集荷見込	過不足	充足率
	A			
こがねもち	4,398	4,465	67	101%
わたぼうし	1,637	1,736	99	104%
その他もち米	0	11	11	-
合計	6,035	6,211	176	102%

【6年産もち米の需要量】

（単位：トン）

用途	銘柄	需要量	既契約	追加需要
		A		
主食用	こがねもち	4,099	4,017	82
	わたぼうし	1,754	1,633	122
	主食用計	5,854	5,649	204
加工用もち米		2,536	128	2,408
米粉用もち米		404	402	2
合計		8,794	6,179	2,615

※ 需要量は、令和5年（11月）とりまとめ数量

※ 既契約は、販売先との契約栽培数量

8. 6年産米 集荷・販売方針の重点取組事項（全農県本部）

(1) 需要に応じた米づくりと出荷結集の推進（主食用米）

- 需給緩和と米価の下落を回避するため、引き続き、主食用米の適正生産と水田活用米穀（非主食用米）・大豆・麦への作付転換を推進します。
- 令和5年産米の1等米比率の大幅低下を踏まえ、異常高温による被害を軽減するための技術対策を周知するとともに、高温耐性のある品種（新之助、こしいぶき、ゆきん子舞等）への作付転換を推進します。











【主食用米の取り組み、考え方】 ※全体の方向性だけでなく、各産地の需給動向も踏まえ検討します。

種類・銘柄		6年産 生産推進イメージ・考え方	
主食用米	うるち米	コシヒカリ	→ やや減産 高温障害のリスクを分散するため、作付けがコシヒカリに集中している地域を中心に、他銘柄への作付転換を推進します。
		新之助	→ 拡大 需要の拡大が期待される高温耐性品種として生産拡大を推進し、全国ブランドとしての地位確立を目指します。
		こしいぶき	→ 拡大 県内を中心に安定的な需要が見込まれること、業務用向けに不足感があることから、生産拡大を推進します。
		その他銘柄	→ 拡大 業務用向けに不足感があることから、需要がありかつ高温耐性のある品種を中心に生産拡大を推進します。
		酒造好適米	→ やや減産 需要者の購入希望に応じた適正生産を推進します。
		もち米	→ 維持 複数年契約栽培にもとづき適正生産を推進します。需要者と結び付きがある米以外については、加工用米・飼料用米への転換を推進します。
		計	→ やや減産 -
	水田活用米穀	→ やや増産 県から市町村に示される生産目安や国・県の支援策、用途・銘柄ごとの需要動向等を踏まえ推進します。	
主食用米・水田活用米穀 合計		→ 維持 -	

(2) 需要に応じた米づくりと出荷結集の推進（水田活用米穀）

○6年産主食用米等生産量が5年産同様669万トに設定されたことから、水田活用米穀についても、5年産と同水準の面積を基本に、品目ごとの情勢・需要動向等をふまえて作付推進をおこないます。

【水田活用米穀の今後の動向】

品目	需給および政策環境		6年産以降の想定される状況
	6年産	中長期	
加工用米			① 酒造用向けは外食需要の回復の一方で、主用途のパック酒需要が苦戦しており需要増加は限定的。 ② 冷凍米飯向けは、需要が堅調に推移していることと持ち越し在庫の解消により需要が増加。 ③ 特定米穀の不足により米菓・味噌用途もまとまった需要があるものの、価格水準次第ではMA米への回帰が懸念。 ④ 今後も堅調な需要が見込まれる冷凍米飯向けを中心に、複数年契約等の安定的な取組みの構築が重要。
輸出用米			① 日本食レストランの増加や日系中食・レストラン企業の海外進出により、海外における日本産米需要は拡大。 ② 米国産カルローズの作付回復に伴う価格競争の激化や為替リスクなどの懸念あり。 ③ 自民党PTで2030年までに輸出量10～18万トまで市場拡大を目指すことが示されており、継続的な支援に期待。
米粉用米			① 社会的な経済活動の再開に伴い、需要は回復局面に転じている。 ② 専用品種の需要は増えているが、適性評価が完了していないこと・種子確保が難しいことから急増は考え難い。 ③ 農水省は2030年度に生産量を13万トに拡大する目標を掲げており、継続的な支援が期待される。
飼料用米			① 主食用米の需給改善、6年産以降の一般品種への支援単価の引き下げにより、6年産も減少傾向が続く。 ② 専用品種化を進める産地もあれば、専用品種に取組まず他品目を志向する産地もあり、地域により状況が異なる。 ③ 飼料用米価格は海外穀物相場や為替等により変動するものの、6年産以降も飼料用米需要は底堅く推移する見込み。
備蓄米			① 5年11月に県別優先枠の考え方が示され、6年産の買入枠は20万ト、優先枠は18万トと農水省が提示。 ② 県別優先枠は、需給見通しの翌年6月末在庫数量により決定し、今後需給緩和局面で入札競争が激化する懸念あり。 ③ 今後、備蓄運営の財政負担のあり方や食料安全保障の観点から見直しの議論が進められることも想定される。

9. 佐渡産コシヒカリの主な販売先、販売事例について

(1) 佐渡産コシヒカリの主な販売先・実需者

エリア	主な販売先	主な実需者
県内	<u>新潟ケンベイ</u>	量販店、米穀店
	全農パール新潟支店	量販店、米穀店
	堀商店	百貨店、米穀店
	藤井商店	量販店、米穀店
	諸長	セブンイレブン、量販店
東日本	<u>全農パール東日本（東京）</u>	<u>コープデリ（日生協）</u> 、パルシステム、量販店（IY）、米穀店
	神明（東京）	米穀店
	木徳神糧（東京）	セブンイレブン、米穀店
	イクタツ（東京）	丸豊、叙々苑
	タカラ米穀（宮城）	米穀店
	北相米穀（神奈川）	米穀店
西日本	<u>大和産業（愛知）</u>	トップバリュー、 <u>ユニー</u> 、米穀店、ユーコープ（日生協）
	名古屋食糧（愛知）	米穀店
	東三河食糧（愛知）	米穀店
	大阪第一食糧（大阪）	米穀店
	伊丹産業（兵庫）	量販店（イオン）
	全農パール西日本（兵庫）	全農食品

(2) 佐渡産コシヒカリの精米袋パッケージ



コープデリ
(全農パールライス
東日本)



ユニー
(大和産業)



新潟ケンベイ



←原信ナルス様から『朱鷺と暮らす郷米』とのコラボ商品を発売いただきました。


※ “環境に配慮した『生き物を育む農法』の取り組みをPB商品を通じて消費者に知って欲しい” という思いから商品化が実現しました。



原信ナルス様は商品PR、トキ保護募金のため、新潟県知事を表敬訪問

- ご清聴いただき、ありがとうございました。
- 「米どころ新潟」としての存在感を発揮できるよう、引き続きJAグループへの出荷結集をお願いいたします。





令和6年産米の 集荷販売方針に沿った 取り組みについて

営農振興部 販売企画課

1. 令和6年産米 集荷販売方針

◆集荷対策(需要に応じた佐渡米確保)

- (1) 需要量に沿った作付け指導
- (2) 水田フル活用の取り組み
- (3) 出荷契約の積み上げ
- (4) 集荷数量の積み上げ
- (5) カントリーエレベーター及び米倉庫の利便性向上

◆販売対策(有利販売の実現と需要の拡大)

- (1) 販売方法について
- (2) 販売促進について
- (3) 米穀流通対策基金について
- (4) 仮渡金の設定について
- (5) 買取販売について

◆集荷対策(需要に応じた佐渡米確保)

(1)需要量に沿った作付け指導

①コシヒカリは、需要量最大まで作付誘導、主食販売を基本

⇒令和5年産コシヒカリの出荷契約対比は約92%と不足気味。

出荷契約数量の精度向上を！

年産	コシヒカリ集荷率 (%)	コシヒカリ1等米比率 (%)
3	90.0	90.3
4	95.0	80.6
5	92.0	3.0

②コシヒカリ以外の品種は、手取りの最大化を交付金を含め提案

⇒令和6年産米の交付金メニューを元に制度の割振りを行います。

(2) 水田フル活用の取り組み

畜産農家連携による稲WCS(稲醗酵粗飼料)等の水田活用

⇒JA佐渡管内のWCS取り組み面積は100ha。

(3) 出荷契約の積み上げ

コシヒカリ集荷計画14, 900トンの出荷契約早期積み上げ

⇒訪問活動を強化し出荷契約目標対比100%を目指します。

(4) 集荷数量の積み上げ

契約数量の100%集荷数確保の取り組み

「収穫前出荷積み上げ運動」、「もう一俵運動」、出荷期間中の集荷状況に応じた出荷要請活動を実施。

⇒JA米の要件は11月末まで！米の出荷が一段落したら保有米の見直しを！

(5) カントリーエレベーター及び米倉庫の利便性向上

カントリーエレベーター(CE)は、相川地区RC、羽茂CEやその他RCと連携し効率的な運営を行う

⇒カントリー・・・稼働期間中の受入変更情報の提供方法の改善、向上。

米倉庫・・・集荷区分毎の効率的な集荷体制を構築。

◆販売対策(有利販売の実現と需要の拡大)

(1)販売方法について

佐渡米の需要量と生産数量目標に沿い、100%集荷と全量販売について、全農と連携した安定販売とJA佐渡独自の有利販売に努める。

⇒JA佐渡独自販売については、認証米をはじめとした「こだわり米」の販路拡大。佐渡米の特長を全国にPR。

販売計画を立てる意味でも集荷数量の確保は重要！

(2) 販売促進について

- ①既存卸、米穀店訪問による安定した販売条件確保
- ②こだわり米の営業活動による新たな取引先確保
- ③コープ佐渡と連携した島内外業者への精米販売量の確保
- ④行政等との連携による消費宣伝PRによる需要の掘り起こし
- ⑤「さどまるしえ」等のネット販売及び直接販売拡大



(3) 米穀流通対策基金について

佐渡米の認知度向上と消費拡大により販売店舗数や販売数量の拡大に向け多様な宣伝手法を用い積極的なPR活動に取り組むため基金の活用を充実する。

● 主な用途

① 米穀店での販促活動



② 生協との交流会



(3) 米穀流通対策基金について

佐渡米の認知度向上と消費拡大により販売店舗数や販売数量の拡大に向け多様な宣伝手法を用い積極的なPR活動に取り組むため基金の活用を充実する。

● 主な用途

③ 佐渡米販売懇談会



④ 米穀店への営業活動の実施



(3) 米穀流通対策基金について

佐渡米の認知度向上と消費拡大により販売店舗数や販売数量の拡大に向け多様な宣伝手法を用い積極的なPR活動に取り組むため基金の活用を充実する。

●主な用途

⑤推奨店(米穀店)産地交流会



⑥推奨店(米穀店)向けの新米説明会



(3) 米穀流通対策基金について

● 主な用途

⑦ 原信での朱鷺米弁当の商談



⑧ 米穀店でのデジタルサイネージ



(4) 買取販売について

有機栽培米などの要望に応じ、売買条件と生産条件に見合う取引が可能なこだわり米を結びつけ、積極的に買取を行う。

⇒佐渡市認証米、自然栽培、無農薬栽培 等



令和6年産米につきましても、引き続きJAへの集荷結集にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



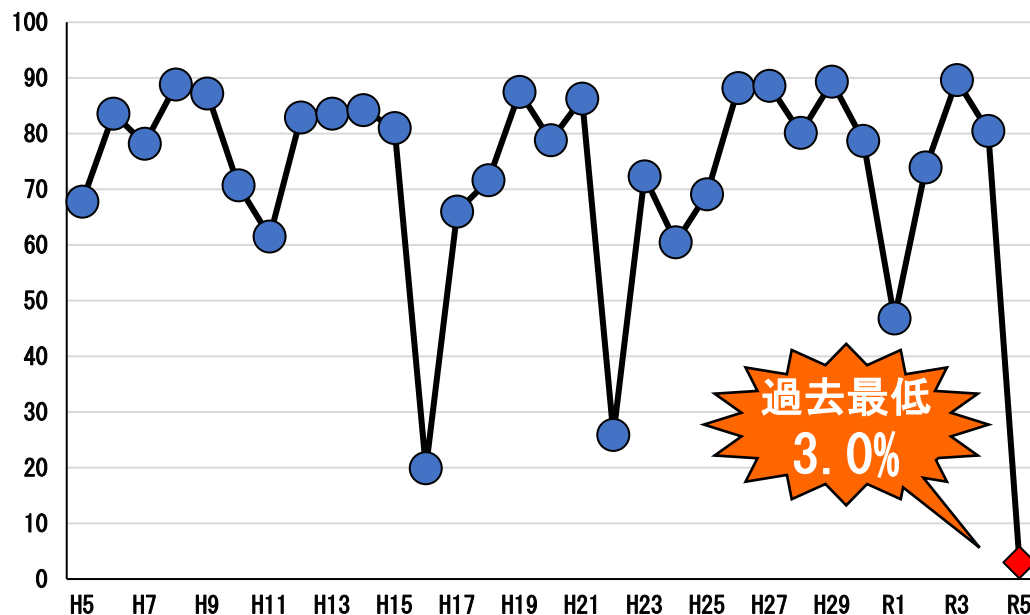
異常気象に対応した 新潟米の対応について

令和6年3月16日（土）

佐渡農業普及指導センター

本年度の高温等による被害

コシヒカリ 1 等級比率 (H5~R5)



品種別 1 等級比率 (R5)

	1 等級比率 (%)
こしいぶき	12.4
コシヒカリ	3.0
新之助	90.3

- コシヒカリの 1 等級比率は異常高温により、過去最低の**3.0%**となった
- その他の品種も同様に、等級低下が顕著であった（こしいぶき：12.4%）
- 新之助は**高温耐性**があり、今年の高温でも大きな等級低下はなかった

本年度の高温等による被害

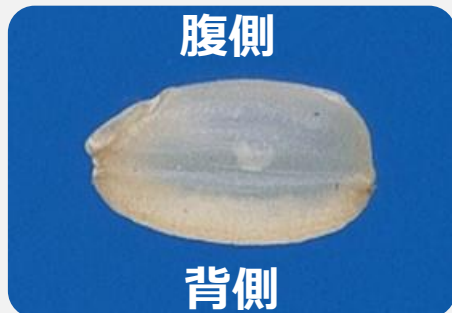
▼被害の様相

→ **白未熟粒**（背白粒、心白粒等）に加え**除青未熟粒**の発生が多い

コシヒカリの主な格落ち要因（R5）

格落ち要因	背白粒	除青未熟粒	心白粒
割合（％）	45.6	17.6	17.0

背白粒



背側が白濁

除青未熟粒



粒が小さく
ハリがない

心白粒

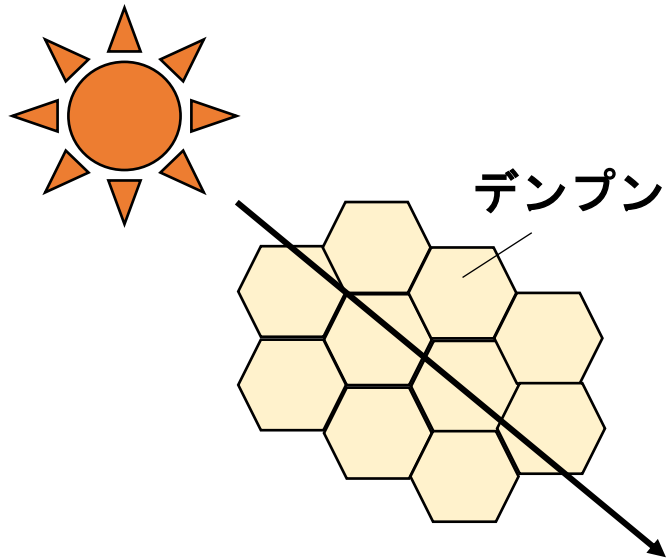


粒の真ん中
が白濁

本年度の高温等による被害

▼白未熟粒発生のメカニズム

整粒

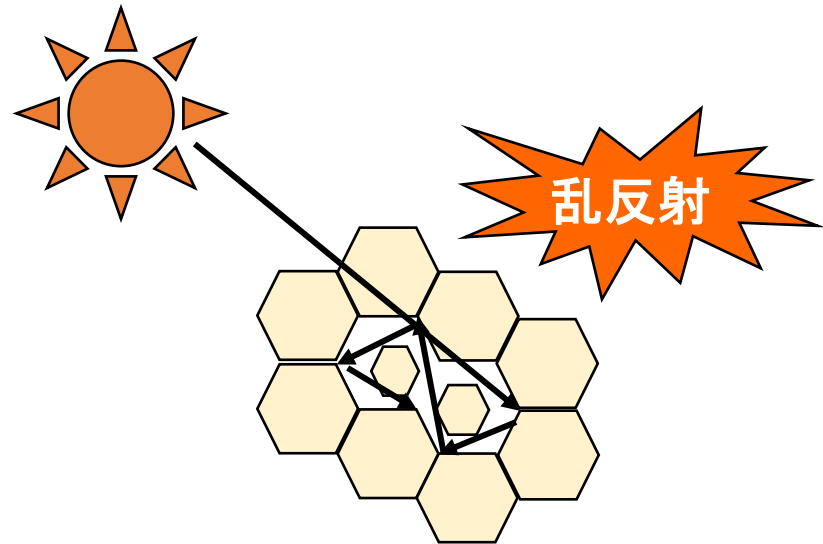


デンプンが隙間無く蓄積している

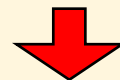


透き通って見える

白未熟粒



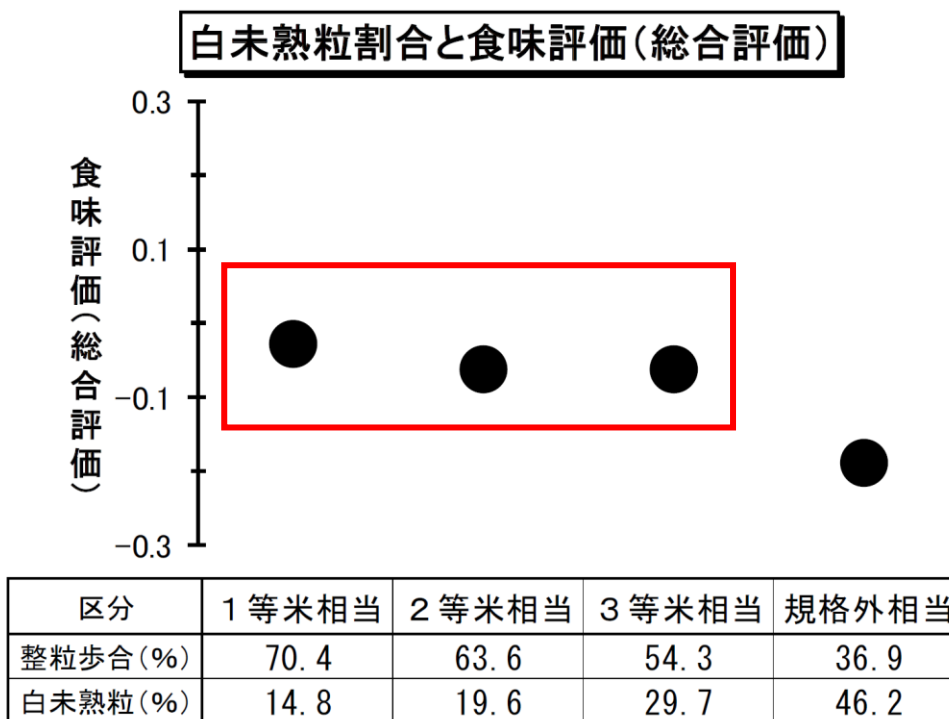
デンプンの蓄積が不完全で隙間に光が当たり乱反射する



白濁して見える

本年度の高温等による被害

▼等級低下による食味への影響

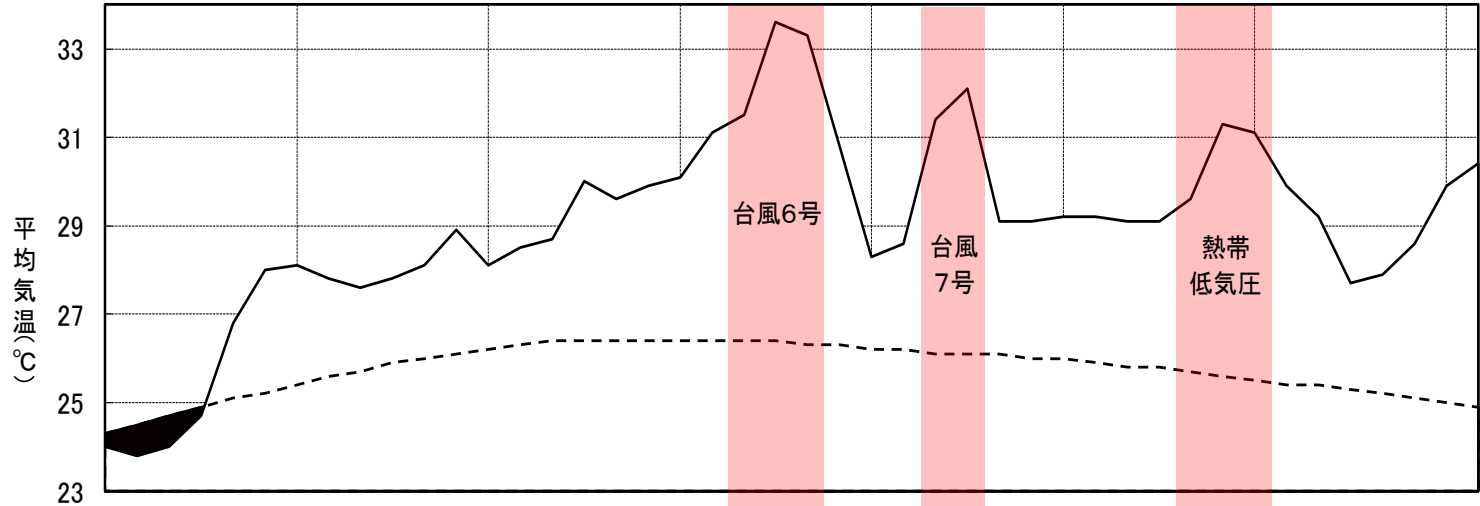


○令和5年度産米のコシヒカリにおける1等米相当と3等米相当の間で食味の差はみられなかった

➡ **1等～3等では味は変わらない**

品質低下要因

▼気象要因



品種	7月											8月																															
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
こしいぶき	出穂期 ←											→																															
コシヒカリ												← 出穂期 →																															
新之助												← 出穂期 →																															

: 出穂後10~13日 (高温感受性が高いとされる時期)
 : 出穂後20日間 (平均気温と1等級比率の相関が高い時期)

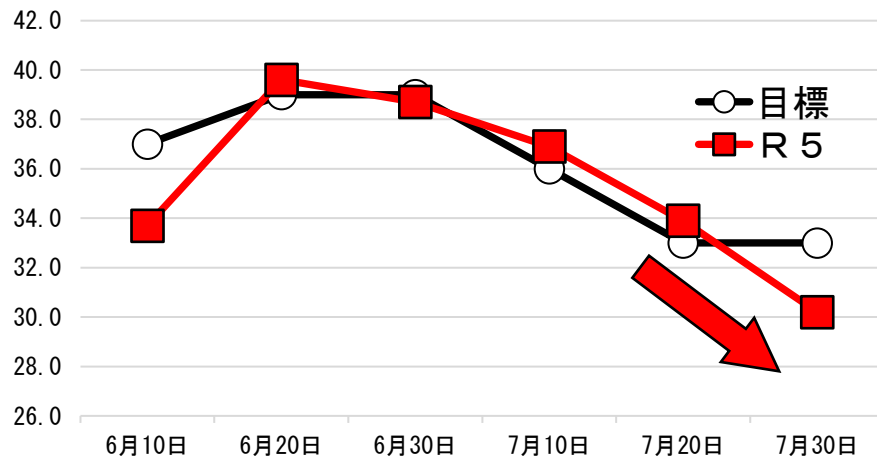
○今年のコシヒカリの登熟期間の平均気温は30℃程度。平年に比べ4℃高く、品質低下したH22やR1に比べても2~3℃高い**異常高温年**であった

○ほとんどの品種で、品質低下につながる時期にフェーンに遭遇していた

品質低下要因

▼技術的要因

コシヒカリの葉色推移



栄養不足状態

コシヒカリの収穫適期

	収穫適期
平年	9/17
R5	9/7

過去生育調査より

※R5収穫盛期：9/17

収穫適期の早まり

- 高温により栄養不足の状態であったが、適切な追加肥料が施用されず品質低下が促進された
- 収穫適期が早まり、刈遅れが顕著となった
- その他、適切な水管理ができなかった等

➡ **適切な管理ができず** 高温による品質低下を助長

異常気象に対応した新潟米の対応方向

基本的な方向

- ・需要に応じた品揃えを基本に、コシヒカリを中心とした美味しくて高品質な新潟米の安定供給をめざす

技術対策の方針

- ・将来的には高温耐性品種を中心とした品種構成による生産とするが、当面は異常高温等の気候変動リスクに備え、作期の分散や後期栄養の確保等の技術対策を強化する。

異常高温による被害を軽減するための技術対策

短期的な対策

1 作付計画の見直しと肥培管理による後期栄養の確保

(1) リスク管理を考慮した作付計画の作成と実践

- ・移植時期の拡大
- ・品種構成や生産品目の見直し、既存高温耐性品種への作付転換

(2) 施肥管理による後期栄養の確保

- ・追加穂肥（分施3回目、全量基肥追肥）診断の確実な実施
- ・省力的な施肥技術（ドローン施肥など）の導入
- ・特別栽培米の施肥体系の見直し

(3) 水管理による後期栄養の維持

- ・飽水管理の徹底に向けた地域内での用水の有効利用

中・長期的な対策

高温耐性新品種の開発・導入

- ・極早生、コシヒカリBL系統

異常高温下で食味・外観品質を確保できる新たな施肥法

- #### 作期分散に向けた見直し
- ・リスク管理を考慮した作付計画についての地域の合意形成
 - ・必要に応じた取水期間の見直し

2 適期収穫と適正乾燥・調製

- ・緊急情報に基づく迅速な技術対応 ・色彩選別機の活用

3 土づくり

- ・靱がらや土づくり資材の積極的な施用 ・稲わらの秋すき込みによる地力増強

◎ セーフティネットの活用強化

- ・品質、収量低下など気象災害への備え ・収入保険、農業共済（品質方式）への加入

◎ 作業（労力）補完体制の構築

- ・農地の集約化、スマート農業技術の活用 ・法人間連携や作業請負組織の設立などによる作業補完体制の構築を推進

* 二重線の枠内は令和6年度以降強化

1 作付計画の見直しと肥培管理による後期栄養の確保

(1) リスク管理を考慮した作付計画の作成と実践

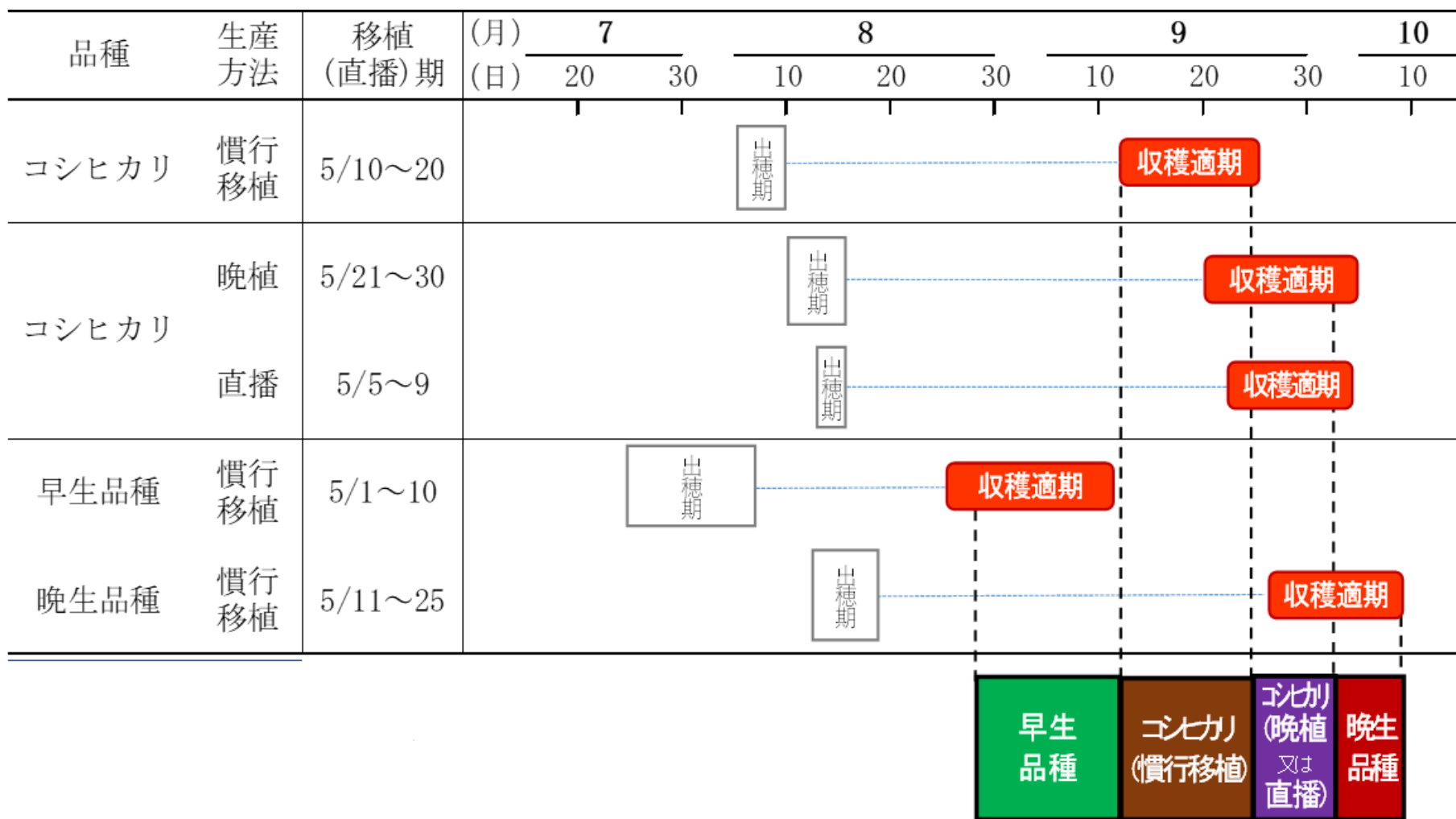
コシヒカリの作付割合が高い生産者で、異常気象による外観品質低下の影響を大きく受けました。

異常気象に遭遇するリスクを分散するため、栽培面では移植時期の分散や直播栽培の導入、品種面では熟期の異なる品種構成への見直しや既存の高温耐性品種への変更など作付計画を見直しましょう。

品種の熟期と高温耐性のめやす

	弱	やや弱	中	やや強	強
極早生 ・早生	新潟次郎		葉月みのり つきあかり ゆきの精 ちほみのり	ゆきん子舞 こしいぶき	
中生		コシヒカリ		にじのきらめき	
晩生		みずほの輝き	あきだわら		新之助

作付計画（熟期分散）検討イメージ



中・長期的な対策 高温耐性新品種の開発・導入

品種育成研究

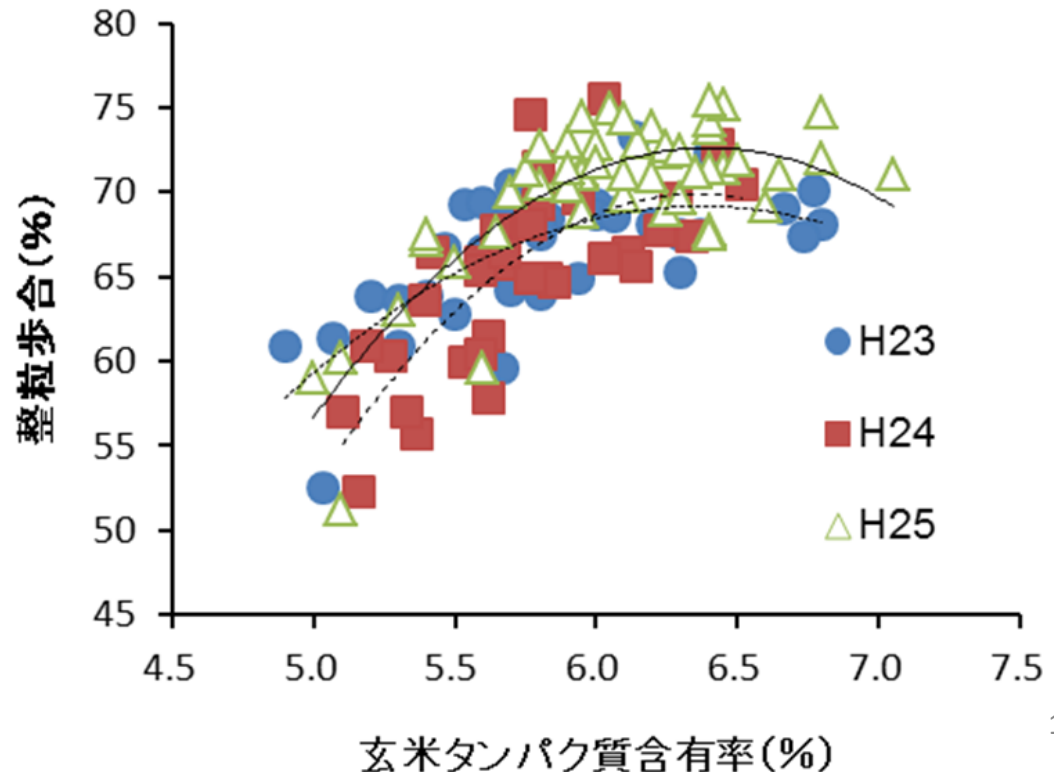
- 高温耐性品種
極早生：令和5年度に候補3系統から有望品種候補を選定する現地試験を実施
早生：有望系統を育成中
中生：耐暑性を有する有望品種候補（R1,2 現地試験実施済）の高温耐性に関わる遺伝子領域を解析し、高温耐性コシヒカリBL開発に活用
- 高温耐性コシヒカリ BL 系統
令和9年を目標に「高温耐性コシヒカリ BL 候補系統群」を開発中

1 - (2) 施肥管理による後期栄養の確保

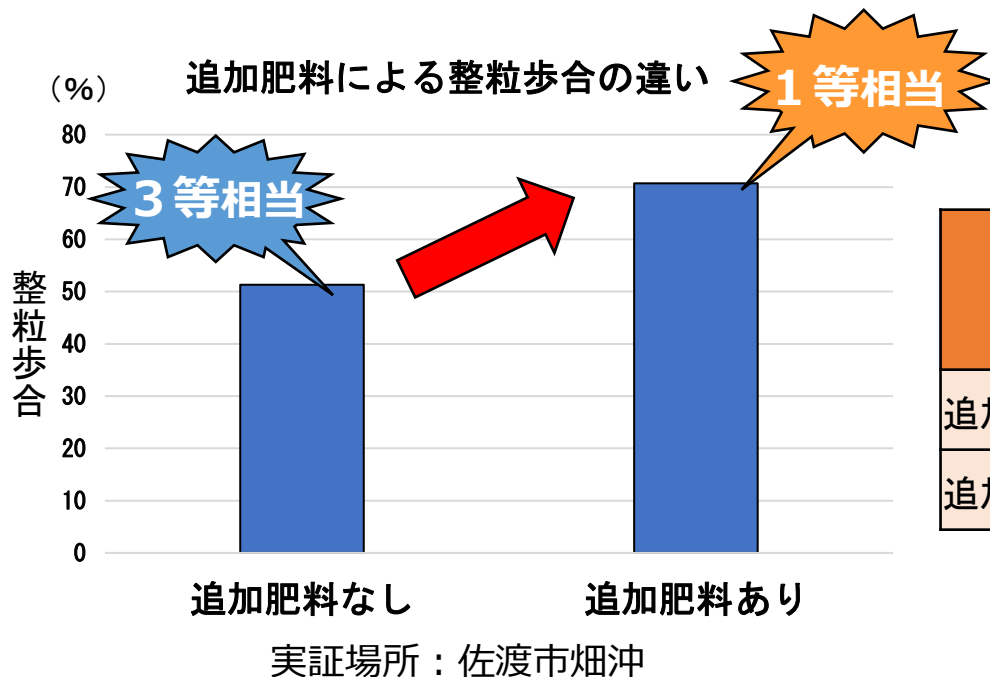
登熟期の高温で発生が増加する基部未熟粒は、出穂期の葉色値が低いほど、また、登熟期間の葉色低下が大きいほど増加します。

玄米タンパク質含有率を低くするために、過度に窒素施肥を抑制すると後期栄養が不足し、外観品質の低下を招きます。

高温が予想される場合は、生育診断に基づき追肥の必要性を判断し、出穂期3日前（走り穂が見え始める頃）までに確実に追加穂肥（分施の3回目穂肥、全量基肥の追加穂肥）を施用してください。



▼追加肥料の必要性



整粒歩合内訳

	整粒 (%)	白未熟粒 (%)		
		乳白	基部未熟	腹背白
追加肥料なし	51.3	7.2	21.3	3.9
追加肥料あり	70.7	3.9	10.0	2.9

○追加肥料により整粒歩合が向上した (51.3% → 70.7%)

○特に**白未熟粒**の発生を抑えることができた

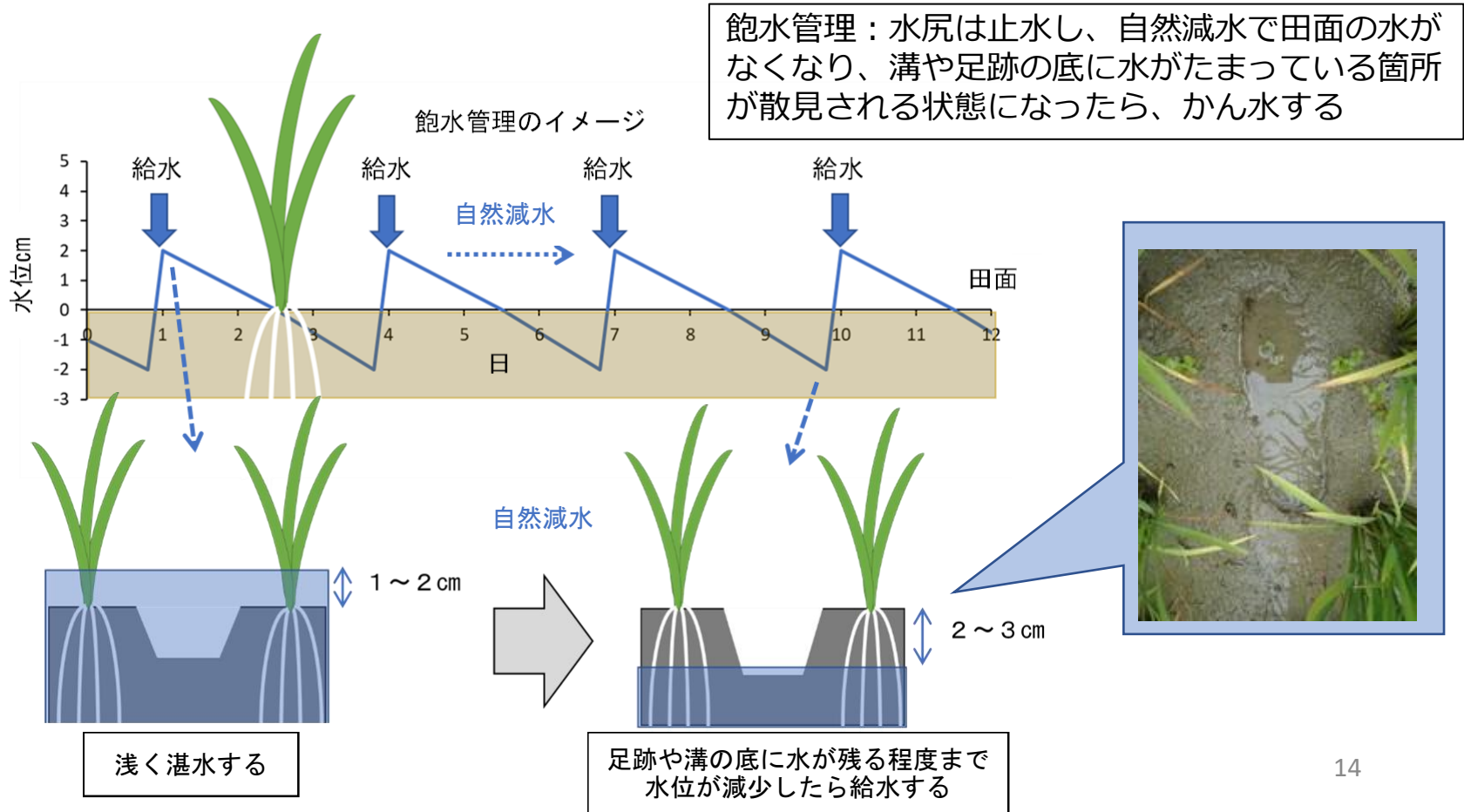
➡ **高温対策**として**追加肥料**が有効

1 - (3) 水管理による後期栄養の維持

暑い時期に溜め水にしたことで、外観品質が低下した事例がみられました。

中干し以降は限りある用水を有効活用するため、飽水管理を徹底し、地温上昇を抑えるとともに根腐れを防ぎましょう。

落水時期は出穂期25日後以降とします。ただし、高温が予想され、用水が確保されている地域では出穂期30日後まで飽水管理を継続します。



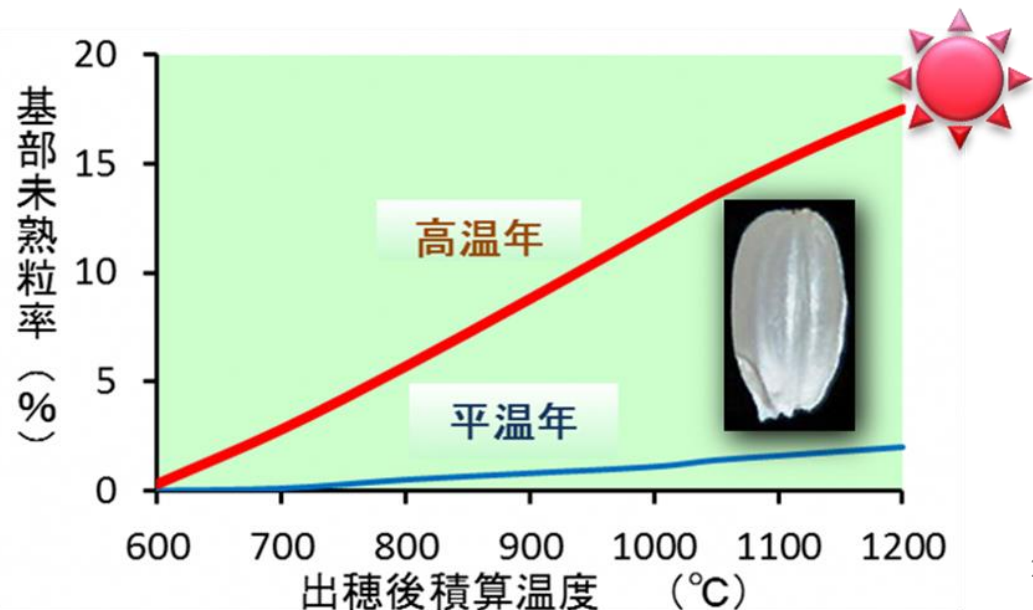
2 適期収穫と適正乾燥・調製

登熟期が高温になると、成熟までの日数や収穫適期期間が短くなり、刈り遅れになりやすいので、注意が必要です。出穂後5～24日の平均気温が26℃を超える場合は、背白粒や基部未熟粒が増加しますが、刈遅れによって基部未熟粒がさらに増加し、外観品質が低下します。

収穫適期は、地域の技術情報や最新の気象情報、籾黄化率に基づいて判断しましょう。茎葉や穂軸は青くても籾は成熟している場合があるので、籾の黄化率が85～90%くらいになった頃をめやすとしてください。

登熟期が高温の場合は外観品質の低下を防ぐため、登熟期間の気温に応じて、収穫開始を積算気温で50～100℃（2～4日程度）早めて収穫してください。

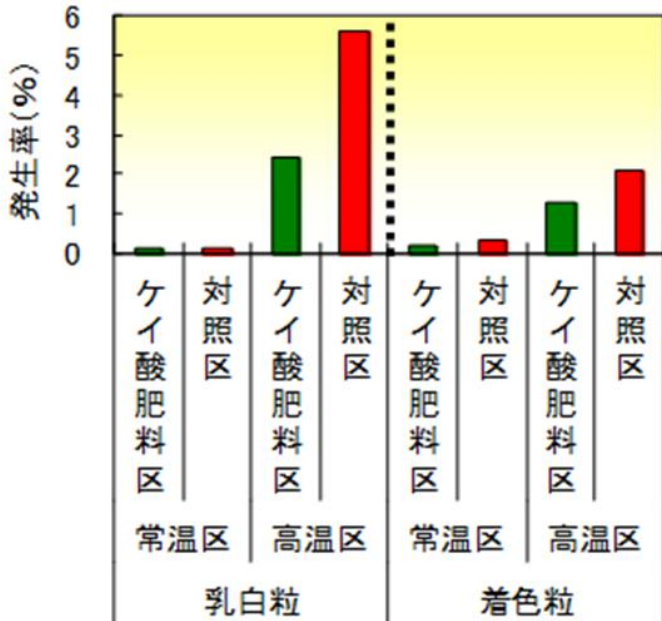
未熟粒や着色粒、カメムシ類による斑点米の発生が多い場合は、調製時に色彩選別機を有効活用して整粒歩合を高めましょう。



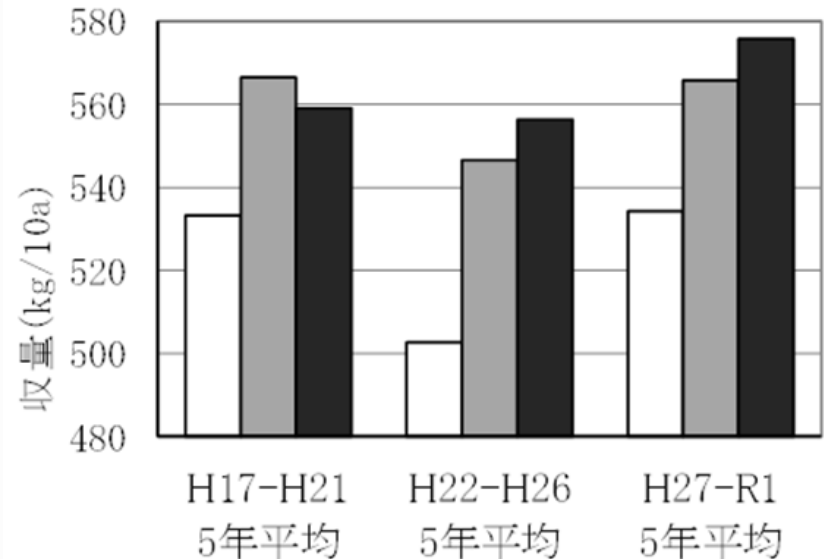
3 土づくり

土壌診断に基づいて堆肥や土づくり資材、特に籾殻等の積極的な施用と稲わらの秋すき込みによって地力を増強しましょう。

稲わらの秋すき込みは、堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待できます。また、水田の保水力が高まり、干ばつやフェーン等に対する稲の抵抗力が大きくなり、収量・外観品質が安定します。



高温条件におけるケイ酸施用が
玄米品質に及ぼす効果



□化学肥料単用 ■秋すき込み ■堆肥施用
すき込み無し

ありがとうございました

高濃度散布（ドローン散布）が可能な
窒素液肥



コロシ

機械散布による追肥作業の軽労化

動散を持って畑に入りたくない！



機械散布なららくらく追肥！



機械散布による施肥の軽労化
そんな夢をかなえてくれるのが...

★ **コロン** ★ です！

今までの常識を変える次世代液肥！

コロンのスペック

チツソ	pH	比重
27%	10.0程度	1.28



液体洗剤のような
とろみのある液肥です！



【資材の特長】

- ★希釈倍率2～5倍の **超高濃度散布** で **肥料焼けが発生しにくい**
- ★葉面散布で **利用効率が高い**

【オススメの用途】

- ① **水稲** の **穂肥期施用** による収量向上
- ② **小麦** の **開花期追肥(3-4月)** による収量・品質(タンパク含量)向上
- ③ **大豆** の **開花期追肥(7-8月)** による収量・品質向上



コロンなら、**超高濃度散布**が可能です！

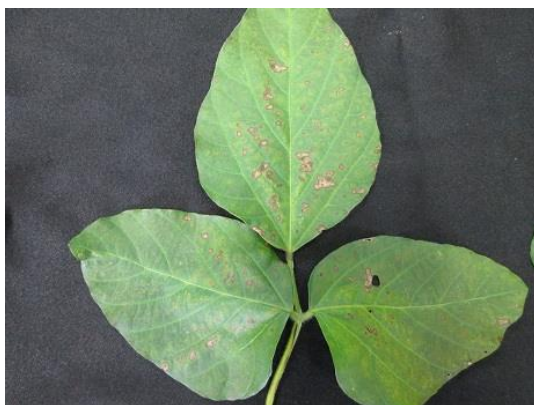
尿素とコロンの窒素量を合わせて散布した比較（自社研究所：散布14日後）

尿素区

TN14%（3.3倍希釈）



TN5.6%（8倍希釈）



コロン区

TN14%（2倍希釈）



TN5.4%（5倍希釈）



肥料の土壌施用の肥料効率は約50%（流亡・揮散・微生物体への取り込みなどによって損失が発生）と言われてています。

葉面散布は、作物体に直接（土壌・水を介さずに）肥料を吸収させることができるため、効率的な施肥が可能です。

～ 肥料の利用効率の目安 ～

大豆 : 慣行施肥の **2倍程度**

水稲 : 慣行施肥の **2～3倍程度**

※圃場条件・作物体葉面積によって肥料効率は変わるため、実際には施用時期における確認試験が必要です。

コロン施用量と窒素施肥量早見表

チッソ 施用量	0.5 kg	1.0 kg	1.5 kg	2.0 kg
コロン現物 使用量	1.85 kg	3.70 kg	5.56 kg	7.40 kg
肥料効率 2倍	0.93 kg	1.85 kg	2.78 kg	3.70 kg
肥料効率 3倍	0.62 kg	1.23 kg	1.85 kg	2.46 kg

※コロンの比重は1.28ですので、**窒素成分1.0kg/10a相当**の散布に必要な**コロン現物量は1.23kg (約0.96L)**となります。

コロン液の製造方法

コロンのご使用に際しては、はじめに希釈液（コロン液）をご準備いただき、投入したい窒素成分に合わせてドローンの吐出量を調整いただくと便利です。調整方法の一例をご紹介します。

① コロン液の準備



2倍希釈液の作成

コロン 1箱は約15.6Lです。2倍希釈液を作成の際は、同量の水で希釈してください。

② 散布量を決定する

右表より、投入したい窒素成分にあわせてコロン液の散布量を決定します。コロンは葉面散布で肥料の吸収効率が高いため、少ない散布量で効率的・軽労的に穂肥作業が可能です。

窒素成分 : 1.0 kg / 10a

コロン液 : 1.93 L / 10a
散布量
(うち化学窒素 : 0.33 kg / 10a)

10aあたりの窒素施肥量と散布液量

窒素成分	コロン液散布量 (2倍希釈の場合)	(うち 化学窒素)
0.5 kg	0.96 L	0.17 kg
1.0 kg	1.93 L	0.33 kg
1.5 kg	2.89 L	0.50 kg
2.0 kg	3.86 L	0.67 kg

※吸収効率が3倍のため、窒素成分 1kg相当のコロン液の化学窒素は 0.33となります。

※吸収効率を考慮する場合は、あらかじめ施肥試験を実施し、肥料効果をご確認のうえでご検討いただくとより効果的です。

希釈液の準備～ドローンへの充填

① 希釈水の計量



② コロンの計量



③ タンクへの充填



④ ドローンへの積載



エア抜き～散布開始

⑤エア抜き



⑥散布

洗浄～散布後の様子

⑦ 洗浄



⑧ 散布後の葉の様子

JA佐渡 水稻穂肥試験 (2023年)

試験者：新穂宮農農機課管内生産者さま

試験品種：コシヒカリBL

田植日：5/22

散布日：7/26（出穂20日前ごろ）・8/5（出穂10日前ごろ）

試験区概要：

慣行区（粒状穂肥2回施用区）、コロン2回区、コロン1回区の3区を設定。



※コロンのチッソ肥料効率を3倍とし（慣行チッソ施肥量の1/3を施用）、
希釈倍率2倍（体積比）液を散布液量1.9L/10aにて葉面散布した。

肥料名	チッソ施肥量 [kg-N/10a]			備考
	慣行区	コロン2回区	コロン1回区	
育苗	0.034 (育苗培土由来)	+ 0.032 (べんとう肥由来)		
基肥	1.94 (有機100%)	+ 0.75 (無機)		※つなぎ肥は 6/7施用
穂肥①	0.96 (有機50%)	0.33 (コロン)	0.67 (コロン)	7/26施用
穂肥②	1.06 (有機100%)	0.33 (コロン)	-	8/5施用 (慣行区は8/4)
合計チッソ量	4.78 うち無N : 1.30	3.42 うち無N : 1.48	3.43 うち無N : 1.49	※小数点以下3位を 四捨五入

コロンと試験散布に使用した機体



コロン希釈セット
1ケースで1~1.5ha分の散布が可能
(1.0kg-N相当/10a施用の場合)

散布に使用したドローン (DJI : T20K)



作業時間比較（区間比較）

散布作業時間の比較（30aあたり：散布開始～散布終了まで）

区名	穂肥1回目 作業時間 [分]	穂肥2回目 作業時間 [分]	作業時間合計 [分]
慣行区	6.5	6.5	13.0
コロン2回区	3.7	3.7	7.4
コロン1回区	7.3	—	7.3

作業時間
40%
カット

※ドローン機体、動力散布機の準備・清掃時間は別途必要です。

※慣行区は動散にて、粒状穂肥を24kg/30a散布にかかる時間。

※コロン区はDJI社製T20Kにて、2回区は5.7L/30a、1回区は11.4L/30a

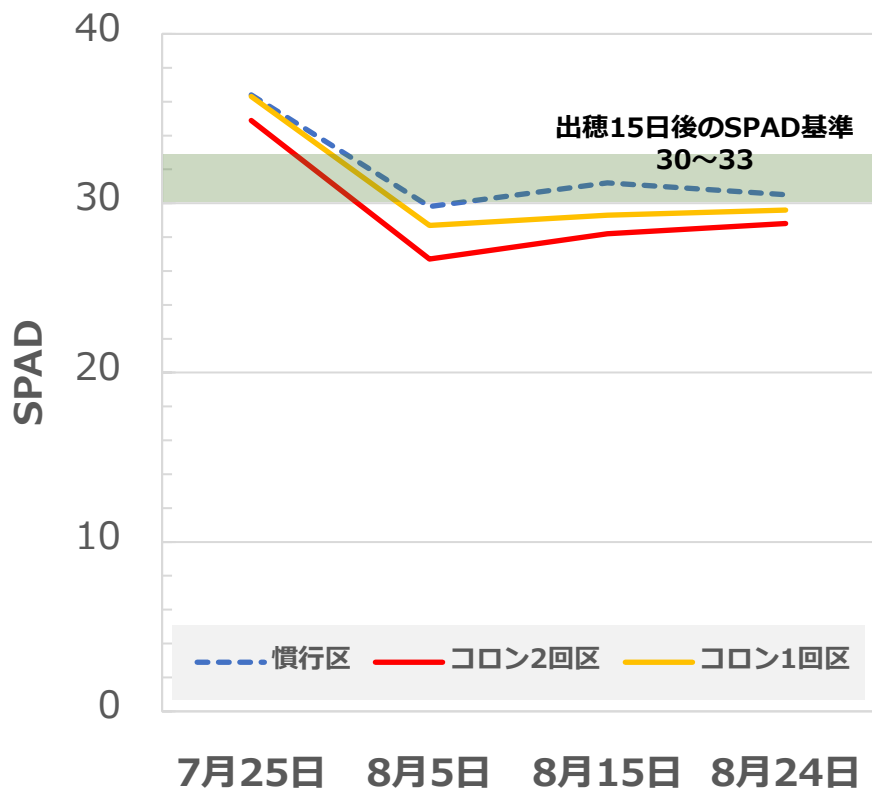
（機体の最大散布量を超えるため2回散布）を自動フライトで散布する際の時間。

**粘度のある液体だが、長時間経過後も水で十分に洗浄ができた。
ノズル等への影響もなく洗浄に不便はない。**

散布請負者によるコメント

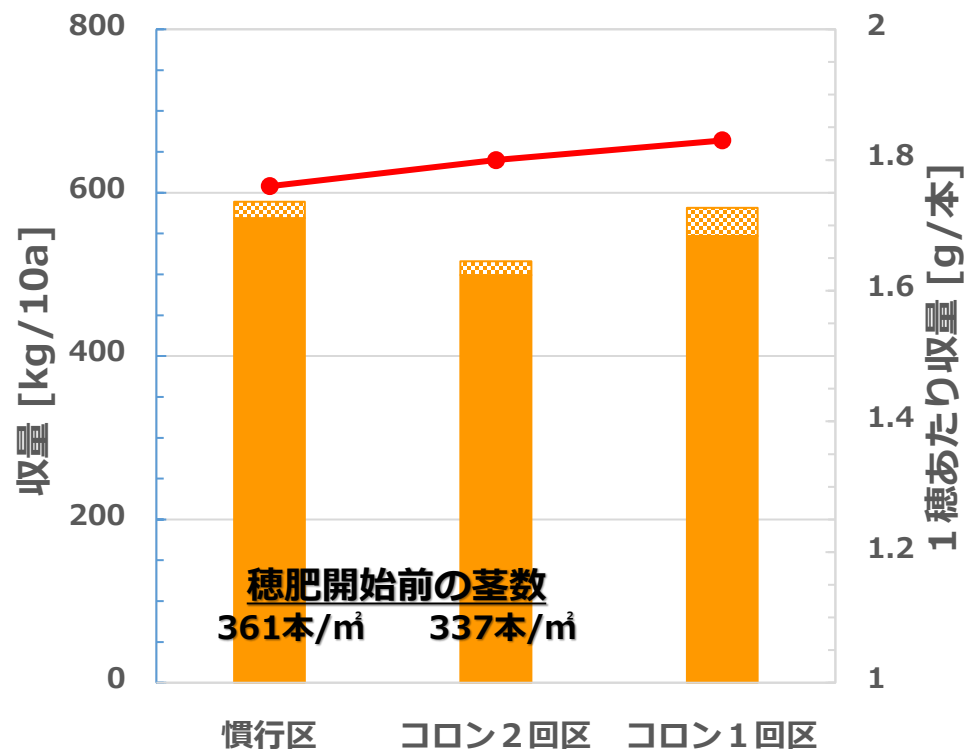


葉色の推移と収量調査結果



穂肥開始後のSPADの推移
(出穂期：8/12ごろ)

※穂肥開始前から生育差が見られるが、穂肥施用後の推移は各区とも同程度



■ 精玄米収量 ■ ぐず米収量 ● 1穂あたり収量

収量調査結果
(m²刈り収量・15%水分補正後)

※収量差は穂肥開始前からの茎数差が影響していたと考えられる

まとめ

- ★本年のような高温・渇水年でも、穂肥効果が確認できた。
また、高濃度散布でも肥料焼けなどの異常は見られなかった。
- ★チッソ施用量1/3（慣行比）でも収量は同等程度！
粒張り向上のためには2回散布がおすすめ！
（1回目：出穂18日前・2回目：出穂10日前ごろ）
- ★チッソの利用効率が高いため、特裁・エコ栽培との相性抜群！



2024年度も試験を継続し、
穂肥作業の軽労化に
貢献できるよう引き続き
努めてまいります！

令和6年度「佐渡米生産者大会」資料

「生育診断に基づいた追肥散布 による後期栄養確保について」

JA 佐渡営農振興部 営農振興課
課長（水稻担当）
末 武 正 考

令和5年度の品質状況・課題

コシヒカリ等級比率全体とSPAD利用者の比較

1等 3.0% → 2.0% (-1.0%)

2等 25.8% → 31.0% (+5.2%)

3等 61.4% → 61.0% (-0.4%)

規格外 9.8% → 6.0% (-3.8%)

平均反収 437kg → 474kg (+37kg)

主な格落ち理由 ①背白粒 ②除青未熟粒 ③心白粒

登熟期間の異常高温の影響を大きく受けた

SPAD利用件数 149件 (6.3%)

耐暑肥期間の穂肥実施人数 135名 (5.7%)

生育診断に基づいた追肥の施用により品質・収量ともに向上している

【後期栄養確保】が重要！

【施用率の向上】が課題！

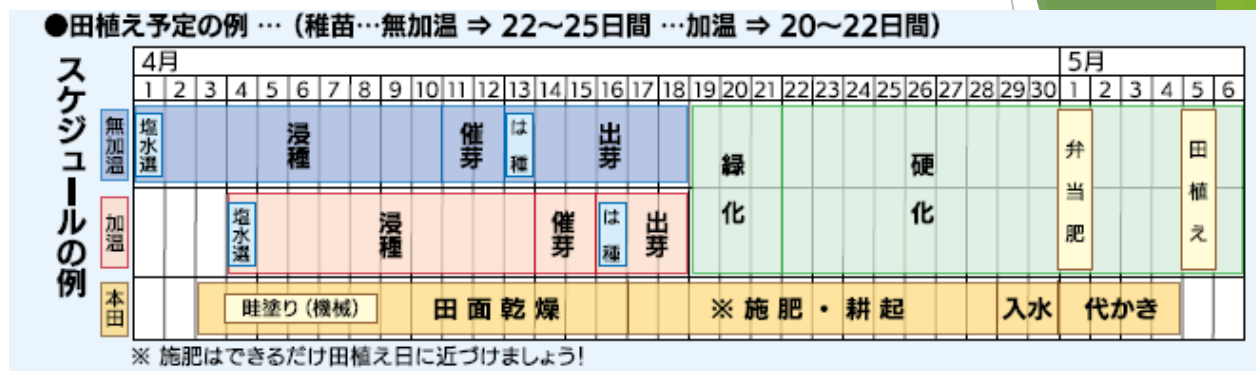
令和6年度の主な取り組み

- ① 高温登熟のリスク回避の為、田植え時期の見直し提案
- ② 生育診断に基づく穂肥の推進と耐暑肥技術の定着
- ③ 土づくり資材の施用推進
- ④ 情報発信強化
- ⑤ 栽培支援システム【ザルビオ】の導入に向けた試験
- ⑥ 省力的な施肥技術（ドローン施肥・流し込み施用）の普及

令和6年度の主な取り組み

① 高温登熟のリスク回避の為、田植え時期の見直し

提案



② 生育診断に基づく穂肥の推進と耐暑肥技術の定着

葉緑素計 (SPAD)



たいしょこえ 耐暑肥のススメ

高温が続き
田んぼが乾いたり
葉色が急激に低下しており
必要に応じて追肥が必要となっています。

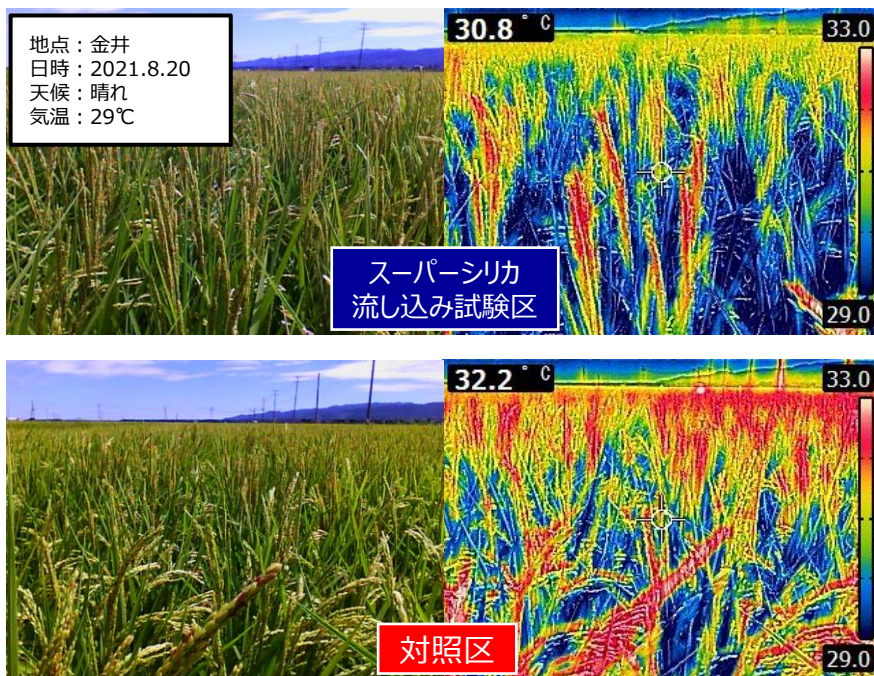


- ◎ 朝夕の涼しい時間帯に田んぼを回り、用水が足りているか？葉っぱの色が落ちていないか？出穂迄の日数を確認してください。
- 用水の不足しているところは暗渠と水尻を開め、少しでも田んぼが湿っている状態を保ってください。
- 葉色が急激に褪めている場合は後期栄養確保のために、「耐暑肥」の散布が重要となります。

③土づくり資材の施用推進

ケイ酸の効果 高温障害・白未熟粒の発生を軽減させる（クーラー効果）

サーモグラフィー温度調査



流し込み施用 島内実演会の様子



高温条件でもケイ酸を施用することにより根張りをよくして丈夫な稲体になります。
春・秋施用できなかった場合、流し込み施用が出来る資材もあります！

④情報発信強化

SNS（メール配信サービス、LINE）の登録推進



◀水稲情報メール配信サービス
または登録用アドレス
wbmv6348reg@mr.cbz.jp



◀LINE公式アカウントができました！
アカウント名：JA佐渡営農情報
営農フェアなどのイベント情報や指導
会案内など営農関係の情報を配信！
注：LINEアプリから読み込んで下さい。

緊急情報等重要な情報を必要な時に皆様へお届けする為
に、登録を推進します！！

栽培支援システム【ガルビオ】とは



ガルビオ®

フィールドマネージャー



ガルビオは、作物や品種、気象情報、人工衛星からの画像等、様々な情報をAIによって解析することで、最適な栽培管理を提案する新しい栽培支援システムです。

スマート農業の初級者から上級者をサポート

衛星画像が農家の目（確認）をサポート（初級者）

AIが農家の頭（判断）をサポート（中級者）

スマート農機との連携で農家の手（作業）をサポート（上級者）



初級者向け	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地力マップ（地カムラを確認し、元肥の設計に利用） ■ 生育マップ（生育状況を確認し、追肥の設計に利用） ■ 散布天気（農薬散布の最適な日時の判断に利用）
中級者向け	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生育ステージ予測 ■ 病害リスク予測 ■ 施肥・水管理の推奨 ■ 大豆雑草管理プログラム
上級者向け	<ul style="list-style-type: none"> ■ 可変施肥のためのマップ生成 ■ 可変散布のためのマップ生成 ■ スマート農機との連携

⑤栽培支援システム【ガルビオ】の実証目的

現状と課題

生産者側

- ・ 担い手・労働力不足
- ・ 品質 不安定
- ・ 収量 不安定・低収量（大規模生産者ほど）

J A 側

- ・ 全てのほ場は回りきれてない。（ほ場ごとの診断）
特に穂肥（時期・量）、収穫（刈取判断）の時期は
相談件数過多で対応が遅れることがある。

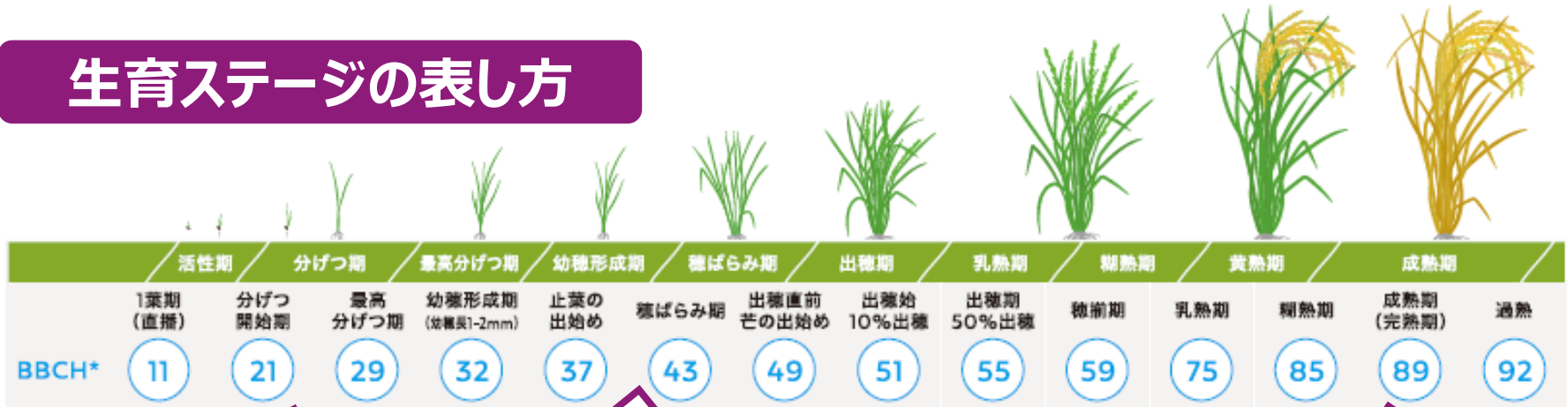
上記の課題解決をガルビオの活用により支援できる！

令和7年度 J A での導入に向け令和6年に島内での実証試験を行います。

生育ステージ予測の島内実証

生育ステージ予測（イメージ）

生育ステージの表し方



例

21 : 中干し



例

40 : 穂肥



例

89 : 刈り取り

ザルビオの生育ステージ予測と
ほ場の生育調査データを比較

可変施肥（基肥）の島内実証

“地力マップ”を見て、基肥可変施肥（手動・自動）

地力マップ

緑が濃いゾーン
地力が高い

緑が薄いゾーン
地力が低い



ほ場ムラに応じて、施肥を実施

可変施肥（追肥）の島内実証

“生育マップ”を見て、ドローンでの可変追肥（手動・自動）



散布前・後の生育マップの比較
収量コンバインで収量比較

栽培支援システム導入により期待される効果

- ・ J A 導入 ①ほ場巡回なくとも衛星画像から概ね指導事項が判断できる。

(生育ステージ・病害発生予測機能活用)

営農指導力強化

- ・ 生産者導入 ①端末画像から生育要期の作業適期の目安がわかる。

(生育ステージ予測機能)

- ②可変施肥による収量増+肥料費削減

(地カマップの活用・可変施肥マップ作成機能)

- ③病害発生予測によるリスク回避+薬剤費削減

(病害発生予測機能活用)

品質・収量向上+トータルコスト低減

【佐渡米全体の品質・収量向上】

⑥省力的な施肥技術の普及

ドローンによる 穂肥散布

ドローンによる省力穂肥に新提案！
高濃度散布可能な窒素液肥



正味：20kg (約15.6 L)

保証成分 [%]	チッソ	リン酸	カリ
	27	0	0

※裏面に詳しい成分タイプ！

★ドローン散布にぴったりな3つのポイント★

ポイント1 ドローンへの補給が**軽労**！
液状でチッソ成分も27%と高いので、ドローンへの補給回数が少なく省力的！

ポイント2 **超高濃度**散布が可能！
希釈倍率2～5倍の超高濃度散布においても肥料焼けが発生しにくい！

ポイント3 **葉面吸収**で**吸収効率が高い**！
粒状肥料による施肥量の1/2～1/3の施肥量でも同等の効果が期待できます。
※裏面試験事例参照

ドローンなら圃場の隅もちらくらくだね！

穂肥・ケイ酸資材 の流し込み施用

流し込み専用
有機入り液肥722

水口施肥で省力化！

1箱当たり、チッソが約1kg
・チッソ成分の半分が**有機由来**
・追肥作業が粒状品よりも簡単なので、**省力化**に貢献！
○保証成分(%)

7-2-2
チリ リンサン カリ
※チッソ7の内3.5が有機由来(設計換算値)
(15kg ロンテナー、比重1.25)

特徴

- ◆粒状穂肥の代替として、動散を担がずに流し込みます。
- ◆1箱当たりのチッソ量は1.05kgです。粒状穂肥と同等のチッソ施肥量となるように、適宜調整してください。
- ◆穂肥適期に水口から簡単に施肥が可能です。
- ◆流し込み液肥を穂肥として使用する省力化メリットと、色むらが発生しうるデメリットを考慮して使用して下さい。

①施用前の「圃場環境」準備



(1)水尻を閉め切る (2)暗渠を閉め切る。 (3)田面をウエット状態にする

②作業手順



15kgロンテナー

①フタをあけて付属の穴 ②水口にセットして、箱を横(または下)に向ける ③ほ場の大きさ、水深等に合わせ、施肥時間を調整する

●供給/ JAグループ ●製造/ 朝日アグリ株式会社

佐渡島内の各地域で、
流し込みを実感して頂きました！

※2022年6月22日～24日にて実施。

低コストで楽に散布、
けい酸効果で健全な稲に。



真野 金井 畑野 同津 小本 赤泊 新穂 佐和田

スーパーシカなら散布はもちろん、
流し込みOK！

可溶性けい酸 施用量(中間追肥)

30.0% **1～2袋**

※水口の状況や圃場の条件により、流し込みに適さない場合があります。

川野田化学

情報提供

地域慣行基準の改正に伴う令和6年産米 5割減減栽培（化学窒素量）の基準変更



【異常高温時の対応】

**出穂前の葉色を確認し、
必要な場合は追肥をしま
しょう！**



令和6年度肥料施用量基準（kg/10aあたり）					
育苗用土	合成培土3号		56kg	全て化学窒素 (0.0336)	
	または ホーネンス培土		60kg	全て化学窒素 (0.03)	
弁当肥	べんとう肥		0.4kg	全て化学窒素 (0.032)	
項目	分施パターン		全体窒素量 (内、化学窒素量)	一発基肥パターン	
					全体窒素量 (内、化学窒素量)
基肥	越後の輝き有機50元肥	40kg	4kg (1.96kg)	越後の輝き有機50 スーパー元肥	40kg 4.8kg (2.364kg)
穂肥 (1回目)	越後の輝き有機50穂肥	10kg	1.2kg (0.57kg)		
穂肥 (2回目)	みらい有機831	20kg	1.6kg (0.8kg)		
穂肥 【異常高温時 等の対応】	※天候(猛暑)や生育によって、施用が必要な場合があります。				
	【必要な場合の施用例】			【必要な場合の施用例】	
	越後の輝き有機50穂肥	8kg	0.96kg (0.456kg)	越後の輝き有機50穂肥	8kg 0.96kg (0.456kg)
全体窒素量 合計			7.8256 kg	4.8656 kg	
内、化学窒素 量合計 (5割減は3.5kg まで)			(3.0516 kg)	【※上記穂肥施用の場合 5.8256 kg】	
				(2.4296 kg)	
				【※上記穂肥施用の場合 2.8856 kg】	

※変更箇所については網掛けしてあります。

※農薬使用成分については変更がなかったので、農薬防除基準については変更ありません。

今後も登熟期間の高温は予想されます。

後期栄養を確保し、気象変動に負けない佐渡米生産の実践により品質・収量目標の達成しましょう！

品質・収量目標

1等米比率90%以上

反収510 k g

ご清聴ありがとうございました。

佐渡米コンテスト表彰式

賞	受賞者名	地区	写真位置
最優秀賞	古屋野 勝 様	赤泊地区	中央
優秀賞	臼杵 望 様	真野地区	左
優秀賞	鶴間 一雄 様	赤泊地区	右



大会宣言(案)

私たちは、この大会で異常気象による品質の低下を軽減する技術対策として土づくりや田植え日の見直しと後期栄養を確保するために追肥の重要性を確認しました。

また、スマート農業による省力技術や衛生画像等のデジタル情報や過去のデータ等に基づく圃場・生育状況をとらえた最新の管理システムを活用した新たな稲づくりの可能性を学びました。

令和6年産の取り組みとして、ケイ酸資材の投入による土づくりや田植え時期の見直しによる高温障害のリスク回避、出穂期以降の水管理と耐暑肥の対応など高温障害対策に取り組みます。

また、島内1JAとして、環境に配慮した農業生産の取り組みを継続し「安心、安全でおいしさを見栄えを兼ね備えた米づくり」を引き続き継続し「1等米比率90%以上の達成」と「特A産地」の返り咲きを目指します。

以上、宣言します。

令和6年3月16日

佐渡米生産者大会